島根県水産試験場　漁海況情報　平成11年10月20日発行

トビウオ通信　(10月号)

(TEL 0855-22-1720)

《ブリの漁獲動向とメイタガレイの漁獲動向》

平成10年のブリの漁況

島根県主要12漁協における平成10年のブリ漁獲量は属人（漁協に所属する漁業者が漁獲した量）で2,685トン、属地（漁協もしくは市場に水揚げされた量）で1,379トンでした。属地、属人とも下半期が上半期を大幅（3～4倍）に上回っていました。これはまき網による漁獲量が7月以降急増したことによります。

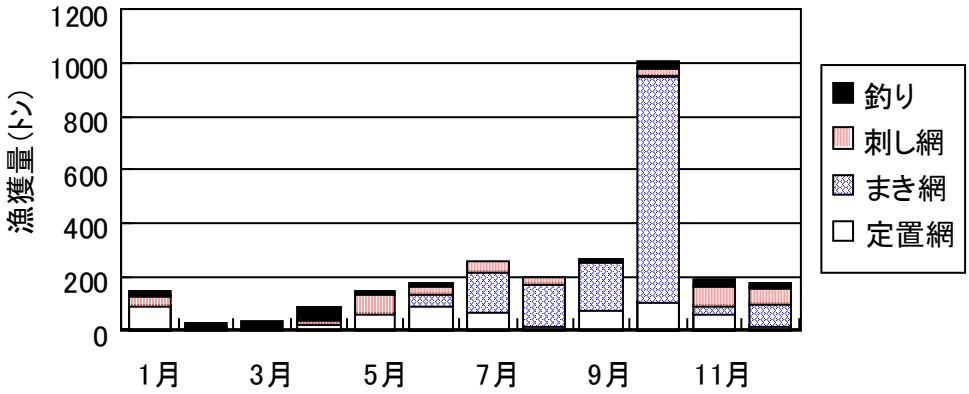


図1　平成10年の主要12漁協における漁業種類別ブリ漁獲量(属人)

サイズ別の漁獲動向は、当歳魚（H10年生まれ、体重500ｇ～1kg）は7月から漁獲が見られ始め、11月に定置網を主体にまとまって漁獲されました。1歳魚（H9年生まれ、体重1kg～4kg）は4～6月は定置網で、10～11月はまき網で漁獲されましたが昨年の予想通りまき網を除いては低調な漁獲に終わりました。2歳魚（H8年生まれ、体重3～6ｋｇ）も1歳魚とほぼ同じようなパターンで漁獲されています。3歳魚以上の大型魚は8・9月にまき網で漁獲されましたが、冬季の定置網への入網は皆無でした。

このほか、ヒラマサが属人で826トン、属地で721トン漁獲されており、カンパチも併せれば12漁協のブリ類の属人漁獲量は3,528トン、島根県全体では推定4,400トンと、H3年～H5年を除けば最近10年間の平均的な漁獲量となっています。

平成11年上半期のブリの漁況

属人・属地とも上半期の漁獲量は昨年を上回っています。これは1歳魚（H10年生まれ、体重1～2kg）が4～6月に定置網・釣りを中心に多獲されたこと、2月に大型（体重6～10ｋｇ）の３～４歳魚がまき網でまとまって漁獲されたことが原因です。２歳魚（H9年生まれ、体重3～5kg）の漁獲量は昨年同時期の２歳魚の漁獲量を大幅に下回っており、これまでの経過（モジャコ～1歳魚時代）からみて、少なくとも山陰海域への来遊量は低水準な年級であると思われます。

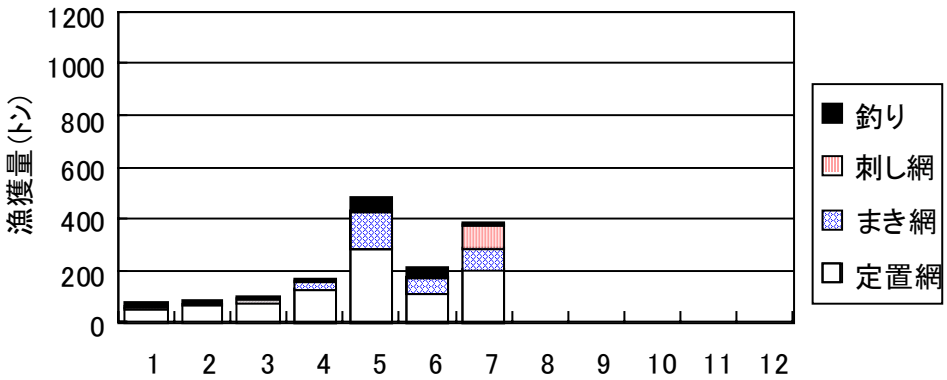


図2　平成11年度の主要12漁協における漁業種類別ブリ漁獲量(属人)

今後のブリの漁況

今年は、島根県を除いて全国的にモジャコの採捕状況は非常に悪く、今年生まれの当歳魚の資源水準は非常に低いと思われます。7 月以降の当歳魚の漁況も日本海から九州西岸の各県とも低調で、島根県でも 8、9 月の定置網への入網状況は昨年同時期の当歳魚よりは悪いようです。以上のことから、今後の当歳魚（体重 500ｇ～1ｋｇ）の漁況は昨年同時期を下回り低調に推移すると予想されます。一方、1 歳魚（平成 10 年生まれ、体重 2～4ｋｇ）はこれまでの漁況から山陰海域への来遊量は比較的多いと考えられることから、昨年同時期の漁獲量を大きく上回ると予想されます。2 歳魚（平成 9 年生まれ、体重 4～6ｋｇ）は山陰海域への来遊量が低水準であり、あまり期待できないでしょう。3 歳魚以上の大型魚は、まき網での漁獲はある程度期待できるものの、冬季の定置網への入網はほとんど期待できないでしょう。

小底１種におけるバケメイタの漁況予測

メイタガレイの仲間には「ホンメイタ」と呼ばれるメイタガレイと「バケメイタ」と呼ばれるナガレメイタガレイの 2 種類がいます。「ホンメイタ」は主に県東部の小底 2 種で、「バケメイタ」は小底 2 種のほか県西部の小底１種や沖底でも漁獲されています。高級魚として単価が高いのは「ホンメイタ」ですが、漁獲量は「バケメイタ」の方が圧倒的に多いようです。

小底 2 種のバケメイタの盛漁期は 6 月です。一方、小底 1 種によるバケメイタの盛漁期は、休漁期明けの９月で、年間漁獲量の約３割を漁獲します。どちらも、漁獲の主体は、前年生まれの１歳魚です。

ところで、小底 2 種と小底 1 種のバケメイタの漁獲量には密接な関係が見られます。図 3 にその関係を示しましたが、小底２種の６月の漁獲量が多い年には、小底１種でも９月の漁獲量が多く、逆に、小底２種の６月の漁獲量が少ない年には小底１種の９月の漁獲量も少ないようです。例えば、今年は、美保関町漁協所属の小底 2 種による 6 月のバケメイタの漁獲量は 10 トン弱と低調でした。すると、和江漁協所属の小底 1 種による 9 月のバケメイタの漁獲量も 15 トンと最近では最も低い値となっています。小底 2 種の漁場は島根半島の東部沿岸、小底 1 種の漁場は日御碕以西の沿岸域ですが、バケメイタの資源はほぼ同じように変動しているようです。

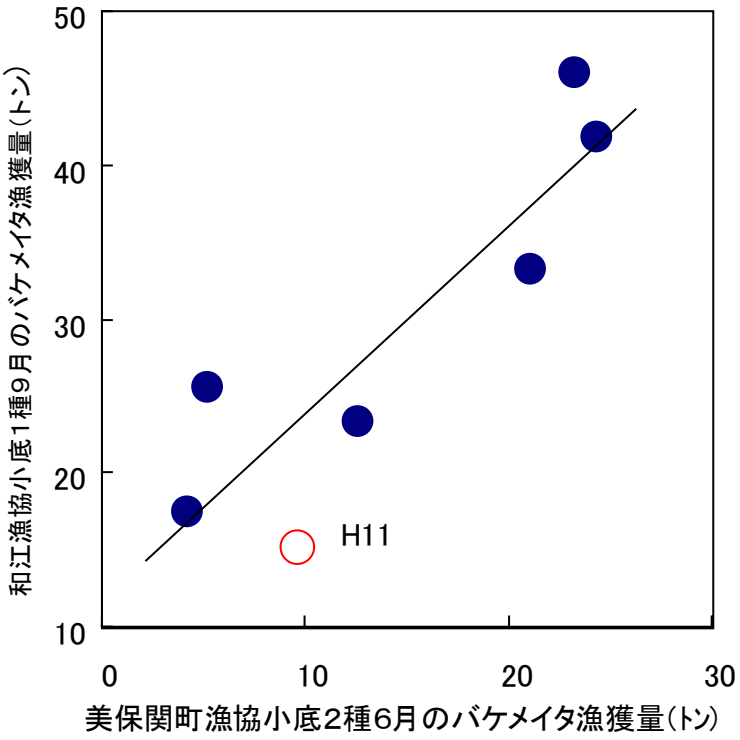
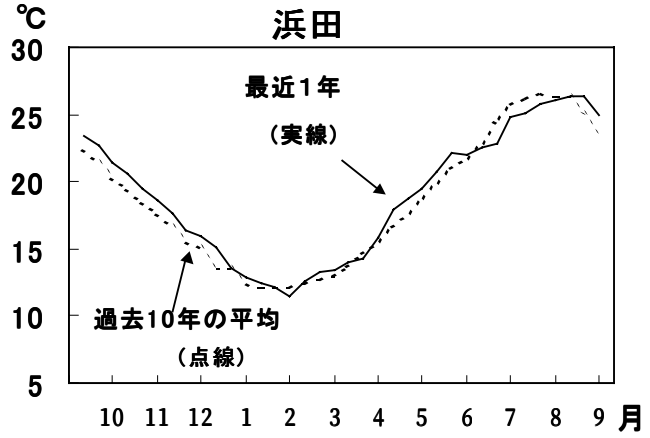
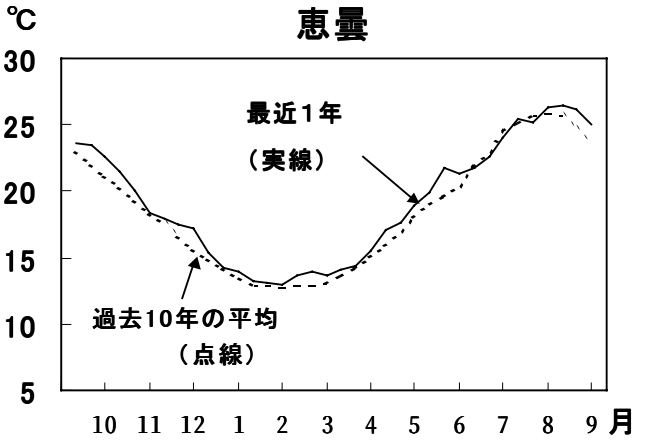


図3 小底2種6月のバケメイタ漁獲量と小底1種9月のバケメイタ漁獲量との関係。平成11年は白抜きで示しています。

図 3 の関係から、６月の小底２種のバケメイタ漁獲量がわかる 7 月には、石見部小底１種９月のバケメイタ漁獲量の多寡が予測可能です。小底１種は、休漁明けの９月当初は、バケメイタを狙って操業する船が多いようです。今後は、９月の石見部バケメイタ豊不漁に関する情報をあらかじめ提供することで、石見部小底１種の９月の操業計画作成の参考になれば良いと考えています。

《　9月の海況　》





定地水温

9月	月平均	平年差	評　価
浜田	25.9℃	+0.9℃	やや高め
恵曇	25.8℃	+1.1℃	やや高め

9月の月平均水温は8月に比べ浜田で0.3℃、恵曇で0.2℃上昇し、浜田、恵曇ともに平年に比べ「やや高め」の水温経過となりました。

島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果（9月下旬～10月上旬）によると、山陰海域の水温は上層ではほぼ全域で平年に比べ「やや高め」～「かなり高め」、特に隠岐諸島周辺では「はなはだ高め」となっています。中・下層では隠岐諸島周辺および沿岸域では「平年並み」、山口県沖合では平年に比べ「やや低め」の水温経過となっています。冷水域が日御碕西北西および隠岐諸島北北西に見られ、狭い海域に暖水と冷水が入り混じった非常に複雑な海況となっています。

《　9月の漁況　》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は1,130トンで、前年の176%、平年の59%と、前年を上回りました。水揚金額は前年の60%とこちらは低調に推移しました。漁獲の主体はカタクチイワシ、マサバ、マイワシで、どの魚種も0歳～1歳といった小型のものが中心でした。また、ブリのまとまった漁獲も見られました。一方、恵曇ではマイワシ、カタクチイワシを主体に817トンの漁獲があり、前年の108%となりました。浦郷ではマアジ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ主体に3,732トンの漁獲があり、前年の76%の漁獲となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ（3.5～4.0段主体）を中心に5,331箱で、前年の61%、平年の59%と低調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、ケンサキイカ（3.0～3.5段主体）を中心に28,842箱の漁獲があり、前年の120%、平年の76%と前年は上回ったものの平年をやや下回りました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はケンサキイカを中心に66.2トンの漁獲があり、前年の217%と非常に好調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は366トン、水揚金額は2億410万円でした。また1統当たり漁獲量は61トン(平年比：14%増)で、昭和62年漁期以来、60トンを越える漁獲があり、水揚金額は3,402万円(平年比：72%増)で、9月の水揚げ金額としては昭和56年以降最高の値となりました。漁獲の中心はソウハチ、ムシガレイ、アナゴなどで、全体的に平年を上回る魚種が多い中、ケンサキイカ、ウマヅラハギは平年の半分の水揚げしかありませんでした。

恵曇港の総漁獲量は153トン(平年比：13%減)、水揚金額は7,759万円(平年比：16%減)で、量・金額とも平年を下

回っています。漁獲の中心はキダイ、ソウハチ、ムシガレイ、ヤナギムシガレイです。この時期まとまって漁獲されるメイタガレイ（ナガレメイタガレイを含む）が低調で、平年の30%の水揚げに留まっています。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における総漁獲量は291 トン(前年比：97%)、水揚金額は１億4,740 万円(前年比：93%)で、量・金額とも前年をわずかに下回りました。キダイを中心にケンサキイカ、ムシガレイ、カワハギ類がまとまって漁獲されました。

大田市漁協における総漁獲量は164 トン(前年比：68%)、水揚金額は7、767 万円(前年比：74%)で、量・金額とも前年を下回っています。漁獲の主体はニギス、ムシガレイでした。出漁日数が前年の 20%減ということもありますが、1航海当たりの漁獲量は560kg/日で、前年（662kg/日）を15%下回っており、全般的に低調に推移しました。

【定置網漁業】

県東部と隠岐地区では漁獲量、水揚金額とも前月の4割から6割と大幅に減少しました。浜田でも、漁獲量こそ前月の２倍以上に増加しましたが、水揚金額は逆に１割程度低下しています。前月県下全域で増加したマサバは、隠岐地区を除いて激減し、前月の１割以下にとどまりました。マアジ、ケンサキイカも各地とも前月に比べて、大幅に減少しています。増加した魚種は、浜田ではサワラとブリ、恵曇ではサバフグです。また、各地区ともカジキ類の入網が目立ちました。

【釣・縄】

出漁日数が前年及び前月を約30%下回り、9月の沿岸の釣は低調な漁模様となりました。

浜田はケンサキイカ･アマダイ･ブリ類（ヒラマサ・ブリ・カンパチ）を中心に19.1 トン、1,613 万円の水揚で、量は35%、金額は40%前年を下回っています。五十猛はケンサキイカ･カサゴ類･マダイ主体の漁で、7.8 トン、720 万円の水揚げで、量は50%、金額は40%前年を下回りました。両地区ともにブリ、カサゴ類を除いてほとんどの魚種が前年を下回っていますが、特にケンサキイカとアマダイの減少が目立ちました。

漁獲統計　　**平成11年9月1日～30日**

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	46	カタクチイワシ・マサバ・マイワシ	24.5トン	1,130トン
	恵曇	95	マイワシ・カタクチイワシ	8.6トン	817トン
	浦郷	95	マアジ・マイワシ・カタクチイワシ	39.2トン	3,732トン
イカ釣り	浜田(沖合)	409	ケンサキイカ	70.5箱	28,842箱
	浜田(沿岸)	325	ケンサキイカ	16.4箱	5,331箱
	西郷	505	ケンサキイカ	131.1kg	66.2トン
沖合底びき網	浜田	29	ソウハチ・ムシガレイ・アナゴ類	12.6トン	366トン
	恵曇	36	キダイ・ソウハチ・ムシガレイ	4.3トン	153トン
小型底びき網	和江	487	キダイ・ケンサキイカ・ムシガレイ	598kg	291トン
	大田市	293	ニギス・ムシガレイ	560kg	164トン
定置網	浜田	71	サワラ・ブリ	965kg	68.5トン
	恵曇	58	カタクチイワシ・サバフグ・マアジ	279kg	16.2トン
	浦郷	23	マサバ・カジキ・ケンサキイカ	381kg	8.8トン
釣・縄	浜田	1,169	ケンサキイカ・アマダイ・ブリ類	16.3kg	19.1トン
	五十猛	447	ケンサキイカ・カサゴ類・マダイ	17.4kg	7.8トン

※１隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量／延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。